

岡山県感染症週報 2022年第46週 (11月14日～11月20日)

新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行が懸念されます！！

新型コロナウイルス感染症の新規陽性者が増加傾向にあり、季節性インフルエンザとの同時流行も懸念されます。次のとおり備えをお願いします。

- 基本的な感染対策の徹底
- 体調不良時の備え（新型コロナ抗原定性検査キット・自宅療養に必要な解熱鎮痛薬等の購入）
- 早期のワクチン接種（新型コロナワクチン・インフルエンザワクチン）

詳細は、岡山県ホームページ → [新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行を見据えた知事メッセージ](#)

12月1日は『世界エイズデー』です

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。



◆2022年 第46週 (11/14～11/20) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第44週	2類感染症	結核	1名 (50代 男)
第45週	2類感染症	結核	2名 (80代 男 1名・女 1名)
	5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1名 (90代 女)
		急性脳炎	1名 (幼児 女)
		水痘 (入院例)	1名 (90代 男)
		梅毒	3名 (20代 男 1名、50代 男 2名)
第46週	2類感染症	結核	2名 (50代 女 1名、80代 男 1名)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2名 (O103: 幼児 男 1名、O157: 20代 女 1名)
	5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	1名 (60代 女)
		梅毒	5名 (20代 女 1名、30代 男 2名、40代 男 1名、50代 男 1名)
		破傷風	1名 (70代 男)
		百日咳	1名 (幼児 女)
	新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	8,936名

ソーシャルディスタンス
・マスク・手洗い・換気！



0-9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
1,142	1,582	1,171	1,167	1,396	893	591	457	358	179

【第47週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O157: 20代 女) の発生がありました。
- 新型コロナウイルス感染症 11,108名の発生がありました (11月21日～27日)。

ワクチン接種も
大切！



1. [新型コロナウイルス感染症](#)は、2022年第46週に8,936名の報告があり (第45週は7,567名)、県内での2020年からの累計報告数は314,659名となっています。詳しくは「[今週の注目感染症①](#)」をご覧ください。
2. **12月1日は『世界エイズデー』です。**岡山県では『世界エイズデー』の関連行事として、エイズに関する正しい知識の啓発活動および保健所・支所で夜間・休日などのHIV抗体検査を実施します。詳しくは「[今週の注目感染症②](#)」をご覧ください。
3. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、2022年第46週に2名の報告があり、2022年の累計報告数は59名となりました (2021年の同時期: 78名)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)」をご覧ください。

4. **梅毒**は、2022年第46週に5名の報告があり、2022年の累計報告数は168名となり、2021年の年間報告数：160名を超えました。（2021年の同時期：135名／1999年の感染症法施行以降で最多の年間報告数となった2019年（年間報告数：190名）の同時期：175名）。全国の発生状況は第45週までの累計報告数が11,018名（2022年11月16日時点）となり、1999年以降で最多の年間報告数となった2021年の7,978名を既に超えています。全国的にこれまでにない勢いで報告数の増加がみられており、注意が必要な状況です。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[梅毒について](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★	RSウイルス感染症	➡	★★
咽頭結膜熱	➡	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★
感染性胃腸炎	➡	★★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★	伝染性紅斑	➡	
突発性発疹	➡	★	ヘルパンギーナ	➡	★
流行性耳下腺炎	➡	★	急性出血性結膜炎	➡	
流行性角結膜炎	➡		細菌性髄膜炎	➡	
無菌性髄膜炎	➡		マイコプラズマ肺炎	➡	
クラミジア肺炎	➡		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	

【記号の説明】 前週からの推移： ⬆：大幅な増加 ➡：増加 ➡：ほぼ増減なし ⬆：減少 ⬇：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減
 発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

【発熱や風邪のときは「かかりつけ医」等にご相談を！】

新型コロナウイルス感染症は、発熱や咳などで始まることが多く、一般的な風邪や、インフルエンザと初期症状が似ています。

こうした症状がある場合は、無理をして学校や職場等に行かないようにして、「発熱外来」で相談・診療・検査をしましょう。

なお、医療機関を受診する際は、必ず事前に電話予約をし、受診時はマスクを着用してください。

詳細は、岡山県ホームページ → [新型コロナウイルス感染症に関するコールセンター](#)

＊子どもの予防接種を確実に！＊



厚生労働省リーフレットより

新型コロナウイルス感染症の流行による影響から、子どもの定期予防接種率の低下が懸念されています。

接種期間内の方は、早めに予防接種を済ませましょう。

予防接種に関する疑問点などは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

[遅らせないで！子どもの予防接種と乳幼児健診（厚生労働省）](#)
[予防接種スケジュール（国立感染症研究所）](#)

今週の注目感染症①

★新型コロナウイルス感染症

●新型コロナウイルス感染症とは

新型コロナウイルス感染症は、世界中で感染が拡大している呼吸器症状などを呈する感染症です。咳やくしゃみ、会話などの際に排出される、ウイルスを含んだ飛沫・エアロゾル（飛沫より更に小さな水分を含んだ状態の粒子）を吸入することで感染すると考えられます。通常は感染者に近い距離（1m以内）で感染しますが、エアロゾルは1mを超えて空気中に留まりうることから、換気不十分な環境では、感染が拡大するリスクがあります。予防接種が進められており、11月23日までで全人口の80.4%が2回、66.8%が3回のワクチン接種を完了しています。接種は幅広い年齢を対象としており、6か月から4歳までの小児の接種も始まっています。詳細は岡山県ホームページ『[新型コロナウイルスワクチンについて](#)』を参照ください。

●症状

現在日本で流行の主流となっているオミクロン株は、潜伏期間が2～3日と、従来流行していた株（デルタ株など）と比較し短くなっています。また、上気道で増殖しやすい特性から、従来株に比べ、鼻汁・頭痛・倦怠感・咽頭痛などの風邪様症状の頻度が増加している一方で、嗅覚・味覚障害の頻度の減少が報告されています。しかしながら、肺炎が進展し、重症化する例も少なからず認められます。特に高齢者や基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、肥満など）のある方がり患すると、重症化する割合が高い傾向にあるとされており、注意が必要です。また、妊婦では妊娠後半期（21週以降）などに重症化する割合が高いことが分かっていますが、ワクチン接種が重症化を予防する可能性があると言われています（[日本におけるCOVID-19妊婦の現状（日本産婦人科学会、2022年6月7日付報告）](#)）。なお、り患後症状（いわゆる後遺症）については、こちらをご覧ください。→ [罹患後症状のマネジメント・第2.0版（2022年10月14日発行）](#)

●報告方法について

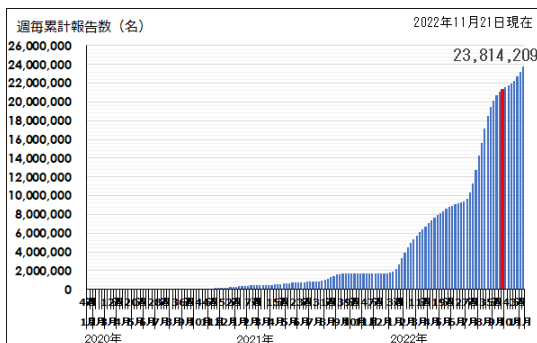
2022年9月26日から全数把握の方法が変更されました。全数届出対象者は65歳以上の者等に限定され、対象者以外は検査キット陽性者登録センター等への登録制になりました。

●発生状況

・全国

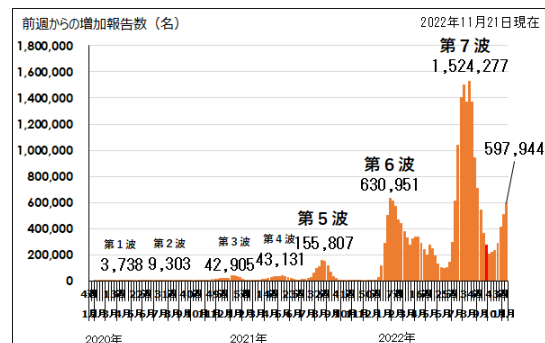
2022年11月24日0時現在までで、国内感染者は累計で24,128,914名、国内死亡者は48,772名、また、同時点における重症者は281名となっています（厚生労働省ホームページより）。

全国の新規感染者数は、増加が継続していますが、増加速度は鈍化しています。感染状況に地域差がみられています。重症者数および死亡者数も増加傾向です。今後、変異株の置き換わりの状況、年末に向けて社会経済活動の活性化による接触機会の増加、気温の低下による不十分な換気等の影響が注視されます。また、季節性インフルエンザは一部の地域で増加傾向であり、両感染症の同時流行が懸念されます。

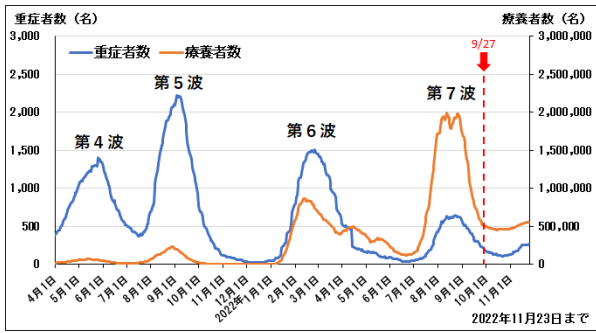


全国 週毎累計感染報告数 厚労省 HP より
(2022年第46週まで(～2022/11/20))

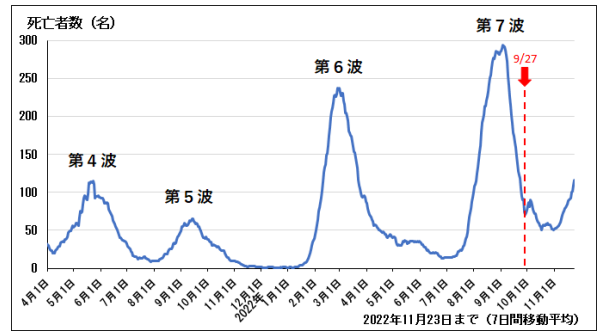
※全数把握方法が変更された2022年第39週の報告数は赤で表示



全国 週毎増加感染報告数 厚労省 HP より
(2022年第46週まで(～2022/11/20))



全国 重症者数・療養者数の推移
(厚生労働省オープンデータより(2022年11月23日まで))



全国 死亡者数(7日間移動平均)
(厚生労働省オープンデータより(2022年11月23日まで))

全国(岡山県含む)の直近の年代別新規陽性者関係の情報は次をご覧ください。

[第107回アドバイザリーボード 資料2-2](#)

(参考)

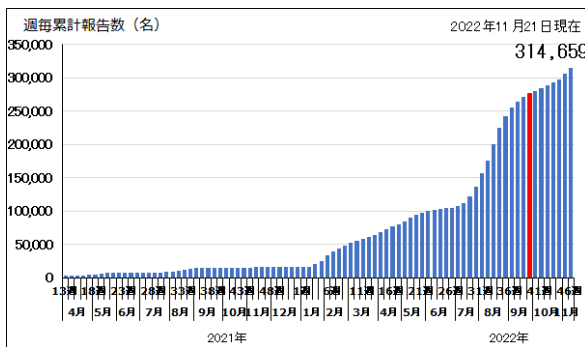
[過去の年齢階級別発生状況等はこちら\(2022年9月20日まで\)](#)

・岡山県(最新情報)

2022年11月25日0時現在まで、岡山県の感染者は累計で320,446名、死亡者は452名(11月18日～24日までの1週間で12名増加)となっています。高齢者施設・医療機関などでクラスターが発生しています。直近1週間の新規感染者数は、全国の状況と同様に増加が継続しています。ワクチン接種とともに、基本的な感染予防策(3密(密閉・密集・密接)の回避、マスクの正しい着用、手洗い、換気など)の徹底に留意しましょう。また、高齢者や基礎疾患があるなど重症化リスクの高い方や日常的にそれらの方と接する方は、混雑した場所への外出など感染リスクの高い行動を控える、体調が悪い場合には外出を控える等、日々の活動面にも留意しましょう。

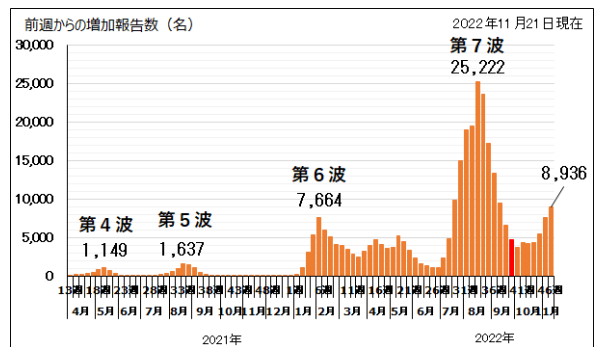
2022年 第47週 速報 11,108名 年齢階級別発生状況一覧表

0-9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
1,497	1,885	1,350	1,645	1,680	1,133	746	563	420	189

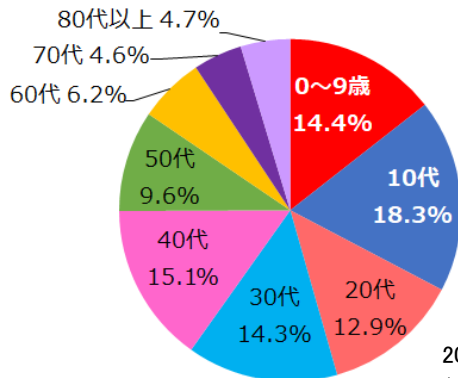


岡山県 週毎累計感染報告数 (第46週まで)

※全数把握方法が変更された2022年第39週の報告数は赤で表示

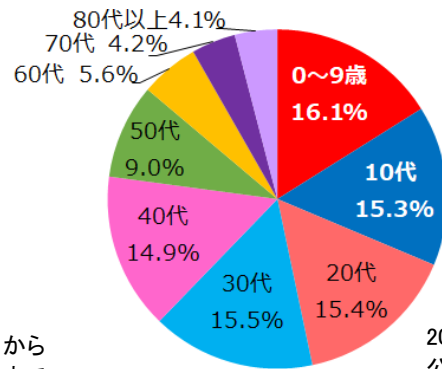


岡山県 週毎増加感染報告数 (第46週まで)

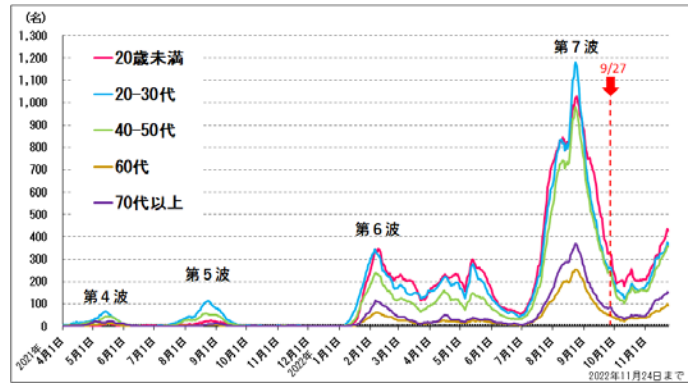


2022年9月27日から
11月24日公表分まで

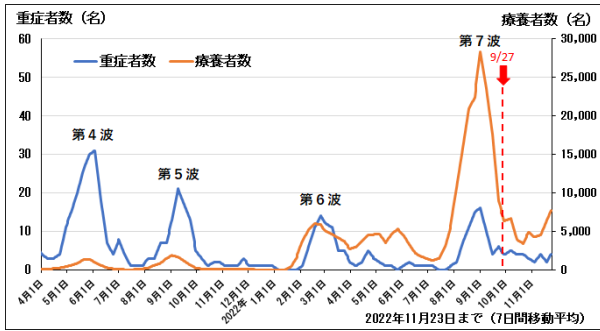
岡山県 年齢階級別累計割合



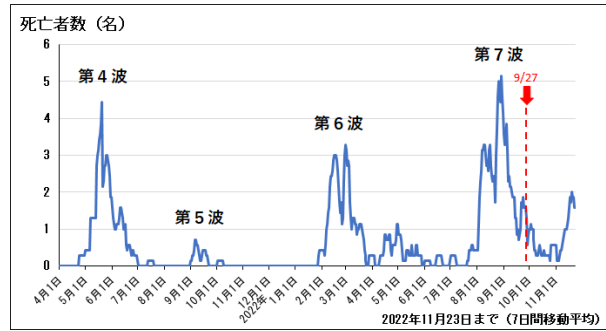
2022年9月26日
公表分まで



岡山県 年齢階級別発生状況(7日間移動平均、11月24日まで)



岡山県 重症者数・療養者数の推移(7日間移動平均)
(厚生労働省オープンデータより(2022年11月23日まで))



岡山県 死亡者数(7日間移動平均)
(厚生労働省オープンデータより(2022年11月23日まで))

今週の注目感染症②

☆後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）

●後天性免疫不全症候群(エイズ AIDS)とは

エイズは、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染することによって起こる病気ですが、HIV 感染＝エイズではありません。HIV 感染後、自覚症状のない時期（無症候期）が数年続き、さらに進行すると免疫が低下し、本来なら発症しない病気（日和見感染症）などを発症するようになります。通常数年程度の期間を要するとされていますが、近年発症の早い症例もみられています。免疫が低下することで発症する疾患のうち、代表的な 23 の指標となる疾患が決められており、これらを発症した時点で、エイズ発症と診断されます。現在はさまざまな治療薬があり、きちんと服薬することでエイズ発症を防止することが可能になっています。

●感染経路、予防方法および感染の確認方法

HIV の主な感染経路は、①性行為による感染、②血液を介しての感染（覚せい剤などの依存性薬物の回し打ちによる注射器具の共用）、③母親から赤ちゃんへの母子感染、の 3 つです。

①は、不特定多数との性行為を避ける、性行為においてコンドームを使用することで予防可能です。

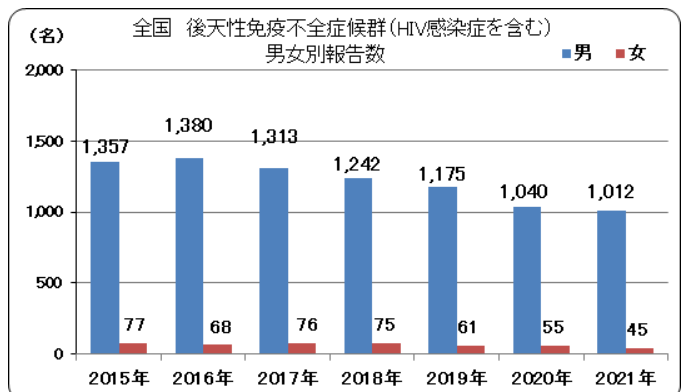
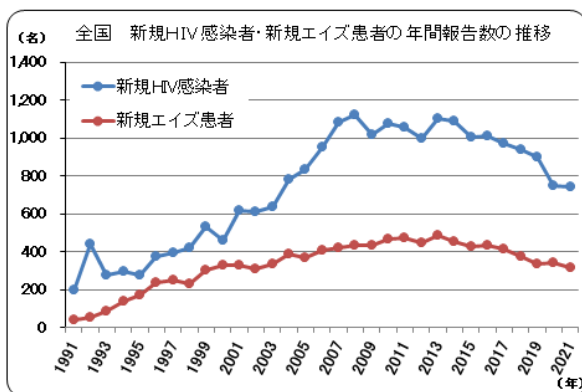
③は、母親が HIV 感染症の治療薬を飲むこと、帝王切開での出産、母乳を与えないことなどで赤ちゃんへの感染を 1 %以下に抑えることができます。（[エイズ Q&A（エイズ予防情報ネット）](#)）

HIV に感染すると、通常 6～8 週間経過して、血液中に HIV 抗体が検出されます。感染初期にはインフルエンザに似た症状が出ることもありますが、この症状からは HIV に感染しているかどうかを確認することはできません。HIV 検査を受けることで、初めて感染の有無を確認することができます。

●発生状況

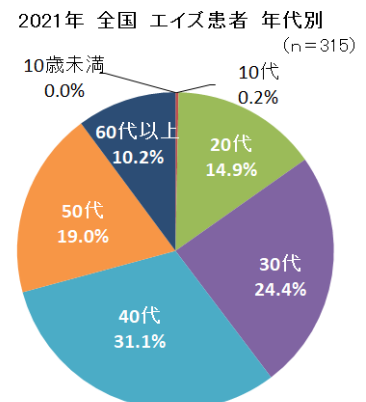
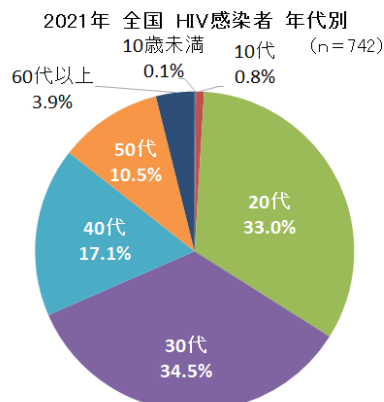
・全国

2021 年エイズ発生動向年報によると、HIV 感染者の新規報告数は 742 件（前年 750 件）、エイズ患者の新規報告数は 315 件（前年 345 件）であり、2020 年とほぼ同数でした。新規 HIV 感染者と新規エイズ患者報告数の合計について、2021 年および 2020 年は 2019 年と比較して減少していますが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う検査機会の減少等の影響で検査件数等が減少しており、無症状感染者が十分に把握できていない可能性があります。この中で新規 HIV 感染者と新規エイズ患者が継続して報告されており、注意すべき状況です。HIV 感染者およびエイズ患者のいずれも、日本国籍男性が 80 %以上を占めています。近年外国国籍男性の占める割合が増加傾向でしたが、2021 年は減少しました。



年代別では、HIV 感染者は 20～40 代で多くなっています。またエイズ患者は、20 代以上の各年代に分散していますが、特に 40 代で多く、HIV 感染者よりも年代が高くなっています。

新規 HIV 感染者およびエイズ患者の感染経路は、性的接触によるものが約 80 %で、HIV 感染者の 71.6 %、エイズ患者の 51.4%が同性間性的接触と報告され、男性の同性間性的接触の多い傾向が継続しています。



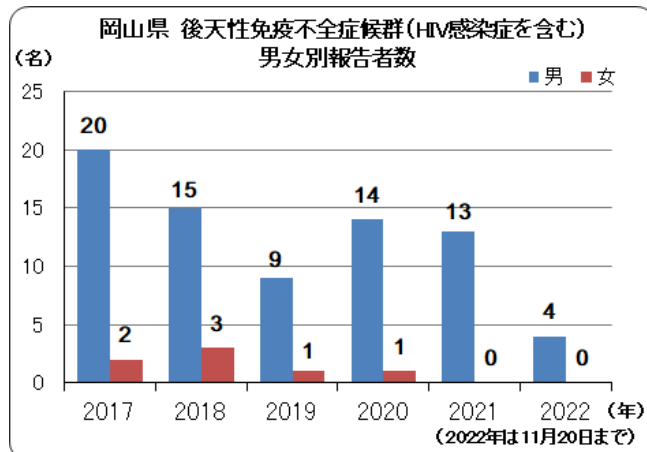
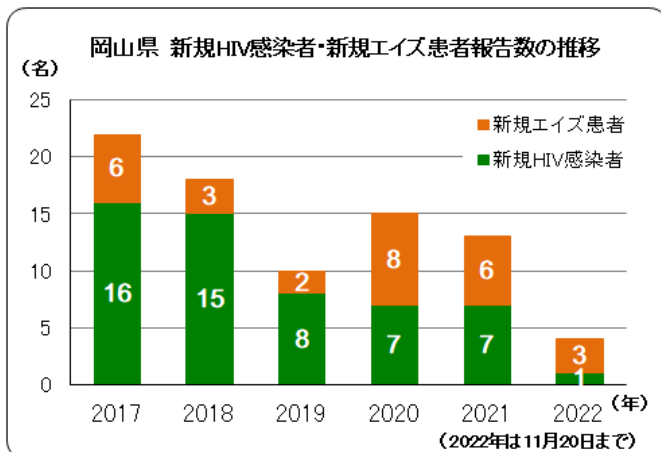
厚生労働省エイズ動向委員会 令和 3(2021)年 エイズ発生動向データより作成

なお、静注薬物使用はエイズ患者で1例、母子感染によるものはHIV感染者で1例となっており、いずれも全体の1%未満にとどまっています。

都道府県別でみると、2021年 HIV 感染者報告数（人口10万人あたり）は、東京都（2.10）、沖縄県（1.09）、大阪府（0.93）の順で多くなっています。また、エイズ患者報告数（人口10万人あたり）は、沖縄県（0.68）、福岡県（0.49）、岐阜県（0.46）の順で多くなっています。岡山県は、エイズ患者報告数（人口10万人あたり）で全国10位（0.32）となっています。

・岡山県

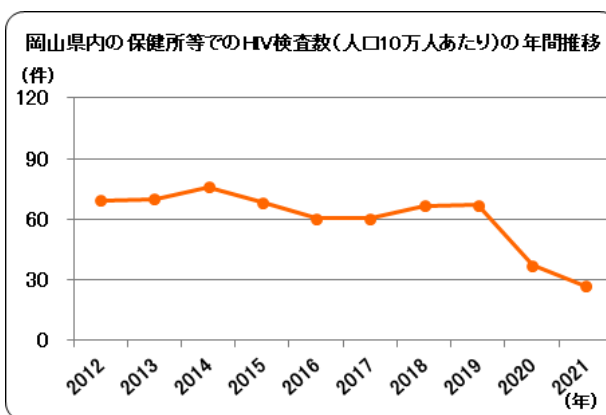
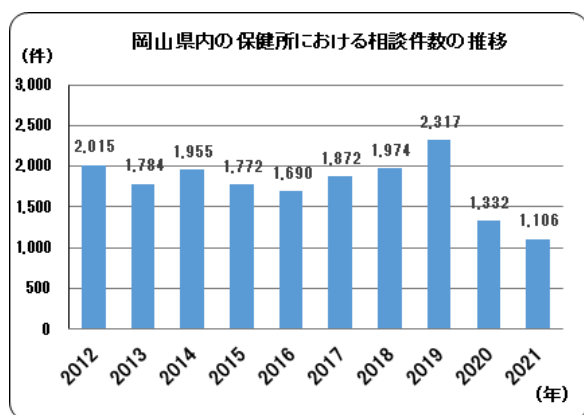
2022年第46週まで（～11/20）に報告されたHIV感染者は1名、エイズ患者は3名で、両者を合わせた新規報告数は4名となっています（2021年第46週までの両者を合わせた新規報告数は12名（HIV感染者6名、エイズ患者6名））。



厚生労働省エイズ動向委員会 令和3(2021)年エイズ発生動向データに、感染症発生動向調査から2022年のデータを追加して作成

【岡山県内における HIV 抗体検査・相談件数】

岡山県内の保健所における相談件数は、近年は増加傾向にありましたが、2020年に大きく減少し、2021年はさらに減少しました。全国的にも同様に、2020年および2021年は2019年比で大幅に減少しました。また、岡山県内の保健所および拠点病院でのHIV検査数（人口10万人あたり）は、2012年以降ほぼ横ばい状態で、2018年以降微増の傾向も窺えましたが、2020年に大きく減少し、2021年にはさらに減少しました。この傾向は全国的にも同様です。先述のとおり新型コロナウイルス感染症の流行に伴う検査機会の減少などの影響が考えられます。



2022年12月1日 世界エイズデー

『このまちで暮らしている。私もあなたも。12月1日は世界エイズデー』

(「世界エイズデー」キャンペーンテーマ)



レッドリボン
エイズに対する理解と
支援の象徴

世界エイズデーは、世界レベルでの後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）のまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、WHO（世界保健機関）が1988年に制定したもので、毎年12月1日を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。

[API-Net エイズ予防情報ネット「世界エイズデー」特設ページ](#)

厚生労働省エイズ動向委員会のまとめによると、2021年までに報告された HIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染者数とエイズ患者数の累積報告数（凝固因子製剤による感染例を除く）は、33,000件を超えました。地域的、年齢的にも広がりを見せており、依然として予断を許さない状況にあります。

HIV 感染者 …… 感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、無症候性キャリアあるいはその他として報告されたもの。

エイズ患者 …… 受診時、すでにエイズを発症しており、感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、「AIDS」患者として報告されたもの（※**いきなりエイズ**）。
(既に HIV 感染者と報告されている症例がエイズを発症するなど病状に変化を生じた場合は除く。)

※「**いきなりエイズ**」とは、エイズ発症によって初めて HIV に感染したことが判明することです。
HIV 感染の治療の遅れとともに予期せぬ感染の広がりにつながる可能性もあり、対策が必要です。

12月1日の世界エイズデーにあわせて、 岡山県内の保健所・支所では、日時を拡大して検査を実施します。

[世界エイズデーについて（岡山県健康推進課）](#)

[令和4年度 保健所における「世界エイズデー」関連夜間・休日検査 日程一覧](#)

※必ず事前に電話予約をしてください。

なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、検査が中止になる場合があります。

岡山県では、平成25年度から全県を挙げて、**HIV 感染防止と「いきなりエイズ」防止**のため、「受けやすい検査」「戦略的な普及啓発」「関係者の連携強化」を3つの柱とした「おかやまエイズ感染防止作戦」を実施しています。

[おかやまエイズ感染防止作戦（岡山県健康推進課）](#)

○岡山県保健所・支所、岡山市保健所、倉敷市保健所のエイズ検査（一部、梅毒なども含む）・
性感染症相談は、以下のリンクから詳細をご覧ください。

[岡山県保健所・支所](#)

[岡山市保健所](#)

[倉敷市保健所](#)

○エイズ治療拠点病院の HIV 検査（**要予約**、電話相談は行っていません）は、[こちらから](#)

HIV 検査について

HIVに感染しているかどうかは、HIV検査を受けないと分かりません。HIVに感染してからエイズ発症まで数年程度と、ある一定期間自覚症状がない時期が続くため、気づかないうちに大切な人にうつしてしまう可能性があります。HIVは、たとえ感染しても早期に発見すれば服薬を続けることで、エイズの発症を防ぐことができます。早期発見・早期治療がエイズ発症防止やHIV感染拡大防止にも結びつくことから、保健所（無料・匿名）や拠点病院（一律1,000円・即日検査）などでのHIV検査を積極的に利用することが望まれます。もしHIV検査で感染していることが分かった場合でも、県内10か所の拠点病院で専門的に治療を受けることができます。

岡山県内での HIV 検査

	検査法	結果時期	正しい検査結果が得られる時期	料金	予約	備考
保健所	血液検査	【通常検査の場合】 ・約1週間後 【即日検査の場合】 ・陰性⇒約1時間後（簡易迅速検査による） ・陽性⇒1週間後（確認のため） * 即日検査を実施している保健所 （備前保健所・美作保健所・岡山市保健所・倉敷市保健所）	感染が疑われる機会があつてから3か月経過後	無料	必須	匿名梅毒などの性感染症検査も同時に受けられる（梅毒の検査結果は1週間後。ただし、岡山市保健所は即日）
拠点病院		即日 （1～2時間後）	感染が疑われる機会があつてから8週間目以降	1,000円	必須	匿名では受けられない

重要！

HIV など、性感染症の検査目的での献血は、絶対に行わないでください！

HIV やその他の性感染症に感染しても、検査ではわからない期間があります。また、献血された血液を検査した結果 HIV が陽性となっても、日本赤十字社は検査結果の通知は行いません。
HIV など、性感染症の検査は、保健所または医療機関で受けてください。

風しんの抗体検査(無料)を受けましょう!

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群(CRS)*の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。
県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます \(岡山県健康推進課\)](#)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#)

をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、実施されています(2025年3月31日まで)。以下の医療機関で、無料の抗体検査が受けられます。

[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

※妊娠初期に風しんに罹患すると、出生児に先天性風しん症候群(CRS)と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

3年間延長
されます!

岡山県の2019年4月~2022年8月の風しんのクーポン使用実績(抗体検査)は、33.1%と未だに低い状況です!
CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を受けましょう!

[風しんの追加的対策について \(厚生労働省\)](#)
[風疹に関する疫学情報 \(国立感染症研究所\)](#)
[“風疹ゼロ”プロジェクト \(日本産婦人科医会\)](#)



© 岡山県「ももっち・うらっち」

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**重症熱性血小板減少症候群(SFTS)***、**日本紅斑熱**、**つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋(3月～11月)にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤(ディートやイカリジンを含む)を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。
体調不良の動物や野生動物との接触は避けましょう。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A \(厚生労働省\)](#)
- ⇒ [日本紅斑熱とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [ツツガムシ病とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [マダニ対策、今できること \(国立感染症研究所\)](#)



吸血後の
フタゲチマダニ♀



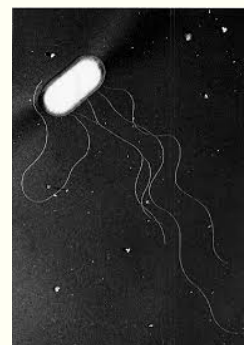
ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 画像

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報発令中です！

- 「清潔」(菌をつけない)
 - ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
 - ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
 - ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。
- 「迅速・冷却」(菌を増やさない)
 - ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
 - ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
(生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。)
- 「加熱」(菌をやっつける)
 - ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
 - ・特に、食肉は中心部の色が完全に変わるまで十分に火を通し、生食は避けましょう(腸管出血性大腸菌は、75℃、1分間以上の加熱で死滅します)。



0157の電子顕微鏡画像
(国立感染症研究所)

[食中毒予防の3原則\(岡山県生活衛生課\)](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント\(厚生労働省\)](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント\(厚生労働省作成チラシ\)](#)

保健所別報告患者数 2022年 46週(定点把握)

(2022/11/14~2022/11/20)

2022年11月25日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	9	0.11	-	-	4	0.25	-	-	4	0.33	-	-	-	-	1	0.10
RSウイルス感染症	42	0.78	5	0.36	3	0.27	1	0.10	4	0.57	1	0.25	4	2.00	24	4.00
咽頭結膜熱	4	0.07	1	0.07	1	0.09	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	0.04	1	0.07	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	199	3.69	85	6.07	34	3.09	37	3.70	14	2.00	14	3.50	-	-	15	2.50
水痘	5	0.09	-	-	3	0.27	1	0.10	-	-	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	72	1.33	31	2.21	24	2.18	7	0.70	9	1.29	-	-	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	16	0.30	10	0.71	2	0.18	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	8	0.15	2	0.14	1	0.09	-	-	3	0.43	-	-	-	-	2	0.33
流行性耳下腺炎	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2022年 46週(発生レベル設定疾患)

(2022/11/14~2022/11/20)

2022年11月25日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	9	0.11	-	-	4	0.25	-	-	4	0.33	-	-	-	-	1	0.10
咽頭結膜熱	4	0.07	1	0.07	1	0.09	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	0.04	1	0.07	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	199	3.69	85	6.07	34	3.09	37	3.70	14	2.00	14	3.50	-	-	15	2.50
水痘	5	0.09	-	-	3	0.27	1	0.10	-	-	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	72	1.33	31	2.21	24	2.18	7	0.70	9	1.29	-	-	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	8	0.15	2	0.14	1	0.09	-	-	3	0.43	-	-	-	-	2	0.33
流行性耳下腺炎	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2022年 第46週 2022/11/14～2022/11/20)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	1	2	1	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	42	7	4	16	2	7	5	-	1	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	4	1	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎	199	3	13	29	22	22	18	16	15	15	6	5	17	5	13
水痘	5	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	2	
手足口病	72	1	2	48	11	5	1	-	2	1	-	1	-	-	
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発疹	16	-	3	11	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	8	-	1	5	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

2022 年 46 週

分類	疾病名	2022		2021	疾病名	2022		2021	疾病名	2022		2021
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	2	223	250	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	2	59	82
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	2	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	-
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	1
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	4	6
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	3	4
	デング熱	-	3	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本紅斑熱	-	9	9	日本脳炎	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	2	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	42	57
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	9	14	ウイルス性肝炎	-	1	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	19
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	-	1	急性脳炎	-	7	8	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	2	4	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	5	4	後天性免疫不全症候群	-	4	13
ジアルジア症		-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	-	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-
侵襲性肺炎球菌感染症		1	19	17	水痘(入院例に限る。)	-	4	9	先天性風しん症候群	-	-	1
梅毒		5	168	160	播種性クリプトコックス症	-	3	1	破傷風	1	3	1
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	-	百日咳	1	14	15
風しん		-	1	-	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-
※	新型コロナウイルス感染症	8,936	299,099	14,120		-	-	-		-	-	-

※新型インフルエンザ等感染症

